

令和6年度学校評価 教職員アンケート集計結果

[内部評価 対象:教職員]

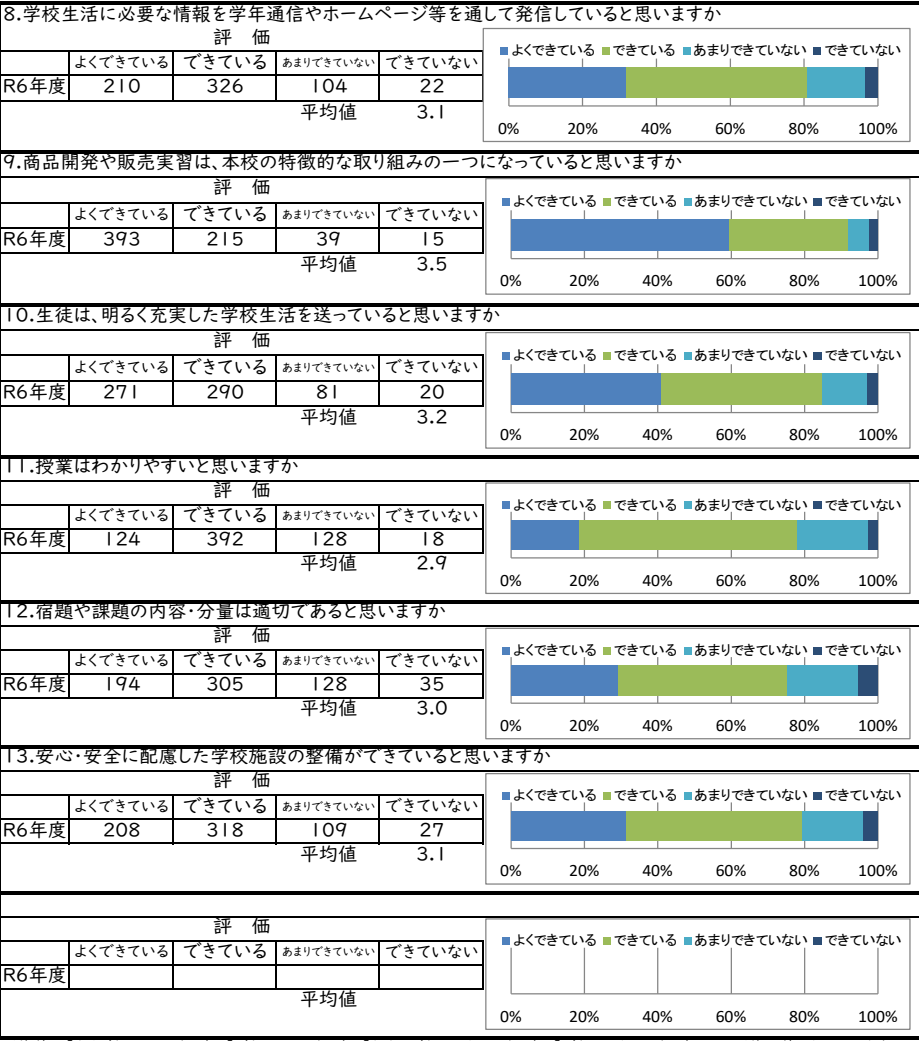
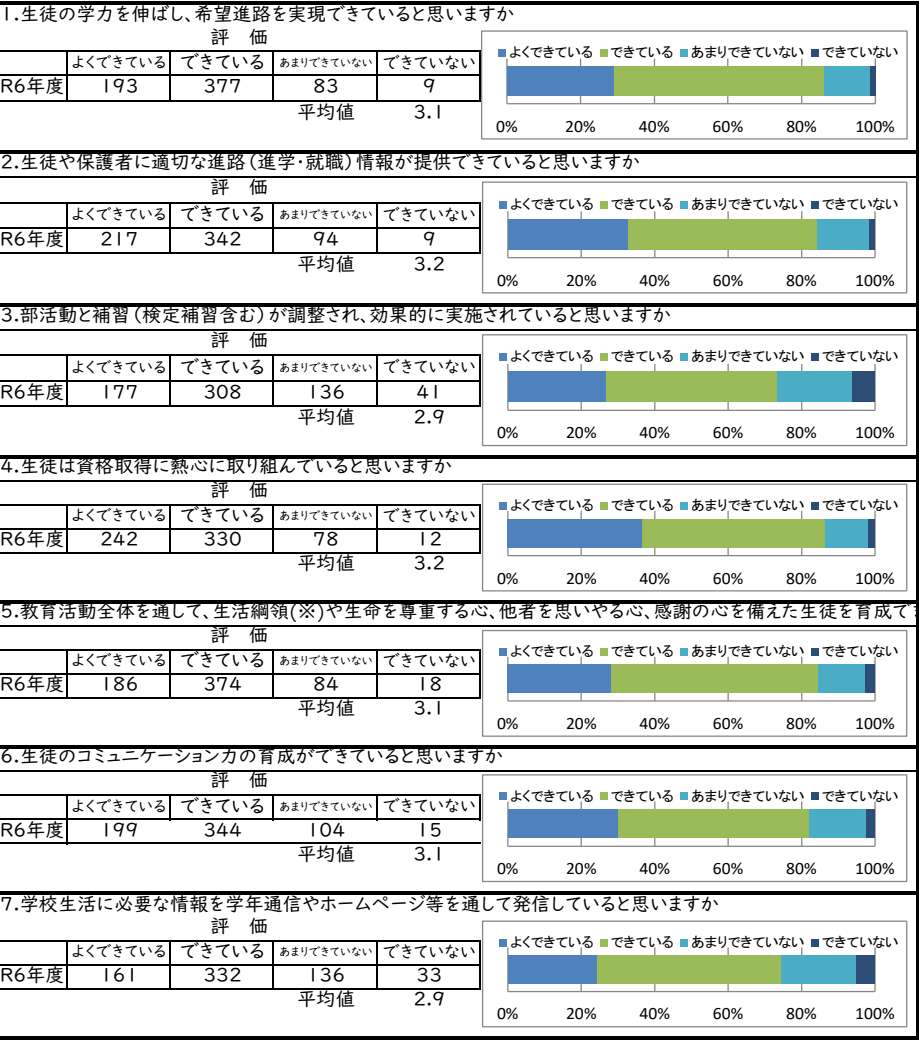
[36名]

No	質問内容	平均値
1	生徒の学力を伸ばし、希望進路を実現できていると思いますか。	4.0
2	生徒や保護者に適切な進路(進学・就職)情報が提供できていると思いますか。	3.8
3	部活動と補習(検定補習含む)が調整され、効果的に実施されていると思いますか。	3.4
4	生徒は資格取得に熱心に取り組んでいると思いますか。	3.7
5	教育活動全体を通して、生活綱領(※)や生命を尊重する心、他者を思いやる心、感謝の心を備えた生徒を育成できていると思いますか。	3.4
6	コミュニケーション力の育成ができていると思いますか。	3.5
7	マナーやルールをよく守っていると思いますか。	3.1
8	学校生活に必要な情報を学年通信やホームページ等を通して発信していると思いますか。	4.3
9	商品開発や販売実習は、本校の特徴的な取り組みの一つになっていると思いますか。	4.0
10	生徒は、明るく充実した学校生活を送っていると思いますか。	4.0
11	保護者や卒業生、地域、地元企業等と連携を図りながら、生徒が社会を感じることが出来る機会が十分設定されていると思いますか。	3.8
12	保護者との緊急連絡体制が確立されていると思いますか。	3.8
13	生徒のキャリア形成を支援するためのキャリア教育推進体制が構築されていると思いますか。	3.8
14	教員の教科指導力を向上させる体制が構築できていると思いますか。	3.3
15	安心・安全に配慮した学校施設の整備ができていると思いますか。	3.1
16	生徒の学力を伸ばし、進路実現に向けた指導ができていますか。	3.8
17	進路情報を十分に理解し、生徒の進路指導に当たることができていますか。	3.6
18	授業見学、公開授業の実施、生徒からの授業評価(アンケート等)などを通して、自身の授業力向上に努めていますか。	3.4
19	「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行っていますか。	3.6
20	生徒の考える力を引き出すことを意識した授業を行っていますか。	3.9
21	コミュニケーション能力の向上を図ることを意識した授業を行っていますか。	3.8
22	課題提出ができていない生徒などに対する指導を十分に行っていますか。	4.0
23	部活動に熱心に関わっていますか。	3.9
24	生徒指導力向上のための取組を行うことができていますか。	3.7
25	生活綱領にある目指すべき生徒像を意識した教育を行うことができていますか。	3.7
26	生徒との挨拶を積極的に交わしていますか。	4.5
27	個人情報の管理・漏洩には十分に気を付けていますか。	4.6
28	ワークライフバランスを意識した生活ができていますか。	3.4

平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点
「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。

※ 生活綱領 ・「自分で考え自分で行う人となろう」 ・「創意工夫に生きる人となろう」 ・「共に喜び生きる人となろう」

令和6年度 学校評価 生徒アンケート集計結果（生徒610名回答）



令和6年度 学校評価 保護者アンケート集計結果（保護者293名回答）

1.生徒の学力を伸ばし、希望進路を実現できていると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	62	174	48	9
平均値		3.0		

0% 20% 40% 60% 80% 100%

2.生徒や保護者に適切な進路(進学・就職)情報が提供できていると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	56	166	59	12
平均値		2.7		

0% 20% 40% 60% 80% 100%

3.部活動と補習(検定補習含む)が調整され、効果的に実施されていると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	60	154	61	18
平均値		2.9		

0% 20% 40% 60% 80% 100%

4.生徒は資格取得に熱心に取り組んでいると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	118	115	48	12
平均値		3.2		

0% 20% 40% 60% 80% 100%

5.教育活動全体を通して、生活綱領(※)や生命を尊重する心、他者を思いやる心、感謝の心を備えた生徒を育成できていると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	63	182	46	2
平均値		2.9		

0% 20% 40% 60% 80% 100%

6.コミュニケーション力の育成ができていると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	60	172	54	7
平均値		2.8		

0% 20% 40% 60% 80% 100%

7.本校の生徒はマナーやルールをよく守っていると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	77	179	31	6
平均値		3.0		

8.学校生活に必要な情報を学年通信やホームページ等を通して発信していると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	109	154	27	3
平均値		2.8		

9.生徒は、明るく充実した学校生活を送っていると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	124	135	27	7
平均値		3.1		

10.保護者との緊急連絡体制が確立されていると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	99	152	38	4
平均値		2.9		

11.安心・安全に配慮した学校施設の整備ができていますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	61	170	54	8
平均値		2.8		

12.本校の生徒はマナーやルールをよく守っていると思いますか。

評価

	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
R6年度	0	0	0	0
平均値		0.0		

※生活綱領「自分で考え自分で行う人となろう」「創意工夫に生きる人となろう」「共に喜び生きる人となろう」

令和6年度 学 校 評 価 報 告

〔内部評価〕 対象：各専門部・学年

A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった

	重 点 目 標	成 果	評 価	課 題	改善策等
総 務	・各部・各学年・各科・PTA・琴陵会（同窓会）との連携を密にし、学校の円滑な運営に努める	・年度当初の計画通りに各行事を実施することができた。 ・行事の目的や意義を明確にし、積極的に生徒を活用することで、生徒が集団における個の役割を理解できた。 ・集会行事などは、気温などに応じて動画配信システムを使用し、各HRにおいて一斉配信でも実施することができた。	A	・各種学校行事をはじめ教育活動が円滑に実施できるように、日程調整・保護者の方への案内作成を行う。 ・動画配信システムの有効活用。	・次年度以降の学校行事の見直し、学校全体を見通して3年間を見据えて行事を考える必要がある。
	・広報活動の工夫と充実を図り、本校の特色（魅力）や情報を学校内外へ発信する。	・学校紹介や部活動紹介の動画作成や学校ホームページの更新など外部への情報発信回数を増やすことで、本校（商業高校）の特徴や魅力を伝えることができた。 ・各中学校へ学校紹介に行くことで、オープンハイスクールへの参加者が増えた。8月、11月の2回にわたりオープンハイスクールを実施し、中学生560名、保護者350名が参加した。	A	・オープンハイスクールの申込時期や、中学3年生の進路選択の情報提供として、学校案内パンフレットなどの広報資料を早い段階で作成・配布する必要がある。 ・ホームページに関しても、姫路商業の授業や部活動、取り組みなど学校の特色を幅広く情報を発信することで学校への理解を深めることにつながる。	・学校ホームページでは、各部署・学年との連携を図り、情報提供や情報発信など学校全体で取り組む必要がある。また、情報発信の頻度についても新しい情報を随時発信していく必要もある。 ・オープンハイについては、体験授業の内容などを工夫し、より姫路商業を理解してもらえるような取り組みが必要である。
	・LHR や講演会などを通じてやインターネットによる人権侵害や女性の人権侵害等、今日的な人権問題について触れ、その実態を学んで理解を深める。 ・人権にかかわる問題の解決に向けて自主的に行動できるよう人権意識を高める。 ・職員研修会を通じ、職員の人権意識の高揚と指導力の向上を図る。	・これまで学ぶことができていなかった「刑を終えて出所した人やその家族に対する偏見や差別」について講師をお招きし人権講演会を実施することができた。 ・人権LHRを通じて人権の問題について各種教材を用い考える機会を定期的に持つことができた。また、生徒同士が自分の考えを伝えあい聞き合う機会をもうけることができた。 ・定期的に人権推進委員会を開き、各部・学年と連携して人権問題への理解に努めることができた。	B	・人権講演会後に生徒に感想文を書かせているがその感想文を十分に活用できていない。生徒と教職員の「学び」が深められるよう、生徒に書かせた感想文を活かしたい。 ・人権講演会後の職員対象のアンケートを実施できていない。	・学年や管理職の確認を経たうえで、生徒の感想文を1月実施の人権LHRの土台の中に組み込む。 ・次年度の教職員対象の人権研修会に反映させる。
	・図書委員をはじめとする生徒たちが自発的に図書室の整備や図書管理を行えるよう指導・助言する。 ・「図書だより」を通じて図書室の広報や書籍の紹介を行い、積極的に図書室が活用されるよう取り組む。 ・新聞紙面の掲示等を通じて、現代の課題や身近な話題を提供する。	・図書室前に社会・経済を中心とした新聞記事をピックアップ掲載し、小論文対策や教養の深化の一助を図った。 ・読書会を年2回実施し、図書委員間で読書活動を深めることが出来た。 ・委員会の活動を通じて、計画的に書籍の整理（新着図書の登録・旧来図書の除籍）を行うことができた。 ・定期的に図書委員会を開き、図書の選定や環境改善、「図書便り」の発行に取り組むことができた。	B	・図書委員会を通じて、まずは委員自身が図書活動に積極的ににかかわる環境づくりが必要である。 ・旧版の書籍が多く、図書室の環境整備や書籍の整理・分類が必要であり、除籍を要する書籍も散見している。	・本年度、図書委員会で前期・後期とも読書会を実施することができた。次年度もこの取り組みを継続し、まずは図書委員から読書活動の輪が広がるよう取り組みを広げたい。 ・SNSで手軽に情報が手に入る一方、誤情報の拡散が社会的な問題となっている。これに対して、新聞は執筆する記者がその文責を問われるだけでなく、デスクや専門家による助言・校閲など多くの人が責任をもって関わり、信頼性が高い情報源である。正しい情報を以って「今日の課題」を掘り起こし、学べる環境を図書室が整えなければならない。

	重 点 目 標	成 果	評 価	課 題	改善策等
教 務	・自ら学び、自ら考える力を育成するため、教科内研修、公開授業を推進し、授業改善を勧める。研究授業を行い授業改善・自己研鑽に努める。 ・能力・適性、興味・関心、進路に応じた教育課程の研究に努める。	・公開授業週間を6月と9月の教育実習期間に合わせて実施した。研究授業についても実施され、フィードバックを受け授業改善に取り組んだ。	C	・校内研修を実施する機会が少ない。研究授業については全体的に実施する教員が少ない。	・公開授業週間に合わせて各教科に必ず研究授業を実施してもらうように依頼する。
	・現行カリキュラムの見直し、改善を行う。 ・観点別評価の手法について、現状の課題の把握、解消に向けた評価方法の見直しを行う。 ・姫商生に付けさせたい資質・能力を教科ごとに考え、教科横断的な教育活動ができるようにする。	・情報科学科のカリキュラムについて検討を行い、見直しについて議論ができた。 ・観点別評価方法について議論を経て見直しを行った。 ・次年度「総合的な探究の時間を」全学年で1単位ずつ実施することとなった。教科横断的な教育活動への第一歩となる。	C	・情報科学科の特色が出せていない。 ・評価方法について年次進行としたため学年により評価方法が異なる。 ・総合的な探究の時間の授業実施に不安を抱える教員が多い。	・情報科学科のカリキュラムを変更する予定である。 ・評価方法については間違いがないように教員に徹底する。 ・総合的な探究の時間の実施内容について年度内に計画を立てる。
	・タブレットPCや短焦点プロジェクタ、BYOD端末を活用した授業展開など、教員の情報活用能力の向上と積極的な活用を推進する。	・指導者用端末が整備されたことでタブレットPCの利活用がさらに進んだ。	B	・授業での活用方法などの研修ができていない。	・ロイロノートやマイクロソフト365等の活用研修を実施する。
システム管理	・オンラインネットワークサービスである、google Classroomやoffice365のアカウントの管理やサービス内容の研修を行う。 ・BYOD端末を用いた授業展開の技術的なサポート、事例提示などを積極的に行う。 ・情報セキュリティ実施手順に沿った運用を行う。	・情報セキュリティ実施手順について整備を行った。	C	・マイクロソフト365アカウントを活用した校務・授業への移行を進めなければならない。 ・情報セキュリティへの意識を教員・生徒にいかにつたせるか。	・それぞれの研修を実施する予定である。
	・タブレットPCや短焦点プロジェクタ、BYOD端末の管理、活用のためのサポートを行う。	・指導者用端末の整備に合わせ、教室等設置のプロジェクタとの無線接続設定を実施した。	B	・教育DXに向けてさらに他の活用を検討していかなければならない。	・DXハイスクール2年目の継続となるため、機材やソフトウェア等の活用について積極的な活用をしていく予定である。
生徒指導部	部活動の活性化・精選	・何を基準に評価するのかが難しく、活性化の部分においては成果がわかりづらい。ただ、これまで兵庫県総合体育大会学校総合順位の8傑に女子は入っていたが、今年度そこから外れた。また、精選については実践できなかった。	C	・部活動加入率がそれほど高くはない状況である。また、学級数と比較して部活動の数が多いように感じる。そのため部員が分散し、ギリギリの人数で活動をするクラブがいくつか見られる。	・学級数に見合った部活動数へと精選することも視野に入れ、現状の活動状況や他校の状況等も踏まえ、協議していきたい。
	生徒会活動の活性化	・旧生徒会役員は文化祭でのステージ発表において、コーラス大会の実施や外部からゲストを招くなど、前年踏襲ではない新たな試みにチャレンジし、成功を収めた。また、新生徒会役員においては意欲的な生徒が多く、次年度に向けて様々なアイデアを提案してくれている。	B	・いま以上に、生徒が自主的にかつ活発に活動を展開していけるように考えたい。また、生徒の声をもっと反映させられる取り組みを行っていきたい。	・生徒の意見を聞く機会をもっと多くもち、その意見をさらに協議し、生徒会活動に反映させられるように働きかける。
	校内規定の見直し	・大幅な改訂は行えなかったが、土日祝日・長期休業中における登下校時と平日の下校時において、部活動生徒に限り、ジャージ等での登下校を認めた。 ・生徒会予算の内規について改訂する予定である。このことについては、次年度4月に実施する生徒総会において承認を得るものとする。	B	・これまでの経緯や指導方針とも照らし合わせて、伝統的に必要なものは残し、時代に即さないものについては見直していきたい。本校は県下でも有数の商業高校であり、社会の即戦力となれる人材の育成という部分に軸足を置きながら、見直しを進めていく必要がある。	・校則の見直しについて生徒会より実施したアンケート結果をもとに、単に生徒自身にとって都合がよいものに緩和していくのではなく、学習環境を整える、学習意欲を向上させる上で、本当に必要なものをピックアップして協議をしていく機会を設定する。

	重 点 目 標	成 果	評価	課 題	改善策等
生徒支援部	・教育活動全体を通して心身の健康の保持・増進に必要な自律的能力を培い、生涯にわたって主体的に健康な生活を保持するための基礎を培う。	・個別に自らの健康に関心を持つ指導を行った。 ・保健室の機能を十分にいかしながら、保護者や学校医と連携を密にし、心身の健康問題の早期発見や早期治療、疾病の予防に努めた。 ・薬物乱用防止講演会を実施した。	A	・健康診断結果を受けて、生徒自らが健康意識を持ち、健康の保持増進につながる行動がとれない生徒がある。 ・集団での健康診断時のプライバシー保護の徹底が困難。可能な範囲で最大限配慮し実施している。 ・生徒が病院受診する時間の確保が難しい。 ・がん教育の準備が遅れている。	・健康診断後の事後指導を個別に丁寧に進める。 ・健康教室を増やし、生徒が健康に関心を持つ機会を増やす。 ・学校として生徒の日常生活の中に病院を受診し定期健診や検査、治療を受けるための日を確保する。 ・がん教育研修会等に参加し実施できるよう準備する。
	・保護者や地域社会との連携を図りながら多様性の社会の中で、生徒にその一員としての共生の心を育成し、生命の大切さを体得する。	・保護者・専門機関と連携し個別に支援を必要とする生徒への支援を組織的に行った。	A	・支援が必要な生徒の把握と情報共有を円滑に実施する必要がある。 ・支援が必要な生徒の中学校からの情報提供がない場合があり、対応に遅れが出る場合がある。 ・支援ファイルの定期的な更新ができていない場合がある。	・年度初めに支援が必要な生徒の把握、ファイルの作成更新、情報の共有までのスケジュールを作成し確認する。情報が更新されるごとに共有を行えるよう体制を整える。 ・可能な限り入学時に把握する。入学後把握した場合は必要に応じ保護者・中学校・関係機関と連携し生徒が学校生活で困難な状況にならないよう努める。 ・キャンパスカウンセリングをさらに生徒に開かれた機会にする。 ・特別支援校内委員会を時間割に組み込みメンバーが全員出席できるようにする。
キャリアセンター	事業所・ハローワーク等、大学などの説明会や高大連携事業を通じて、最新の進路情報を収集して、生徒や全職員と情報共有を図る。	・生徒と教員対象のGoogle classroomを作成し、オープンキャンパス情報を中心に進路情報を掲載している。 ・大学説明会などで収集した情報を3学年へは回覧などで情報共有を図った。 ・教員の共有フォルダに進路情報を載せたファイルを作成した。	B	・大学に関する情報や就職に関する情報の共有の仕方を工夫する必要がある。	・Google classroomの運営の仕方を工夫し、生徒への情報提供の頻度を上げる。 ・学年会や学年へ回覧するなどして、情報共有できるように進める。
	常に新しい社会や経済の動きに関する情報が提供できるよう体制を整える。（志望理由書・小論文対策）	・日経電子版 for Educationを導入した。	A	・3年生全員がIDの登録期間までに登録ができていなかった。	・日経電子版からIDの発行を早めてもらい、課題研究などの授業を使って、登録する。 ・商業科目だけでなく、普通教科の科目の授業での利用を推進する。
	生徒の進路決定が円滑に行われるように、3年間のキャリア教育の計画を立てる。 ・模試等を活用しながら、基礎学力の向上と共通テスト対策を行う。 ・Classiの利用を推進する。 ・就職希望者のみならず、進学希望者もインターンシップの参加を推進し、職業観を養う。 ・生徒自身が10年後20年後を見据えて、キャリアの積み重ねができるよう進路ガイダンスを計画し、実施する。	・従来の模試に加えて、3年生の進学希望者対象に模試を導入した。 ・2年生対象のインターンシップに、就職希望者だけでなく進学希望者も参加するように促した。 ・2年生の進路ガイダンスで、大学見学や企業訪問などの校外進路ガイダンスを実施した。 ・進路の手引きを作成した。	B	・3年間を通したキャリア教育に向けた計画を学年と密にして立てる。 ・進路の手引きは3学年のみの配布であった。	・年間行事予定を作成するときに、学年と意見交換をする。 ・学年と生徒の情報交換を行う。 ・進路の手引きを1, 2年生にもPDFなどで配布できるように進める。
	放課後にClassiを利用する等、生徒が安心して使える自習室を整備する。 ・小論文指導、面接指導、検定指導等、全職員でサポートできる体制の充実を図る。 ・個別相談日を設ける等、いつでも気軽に相談できる体制を整える。	・夏季休業中等一定期間で生徒が安心して使える自習室を設置した。（3年生のみの使用） ・小論文指導・面接指導で全職員でサポートする体制を整えた。 ・個別相談日を設けた。	B	・全学年の生徒がいつでも使用できる自習室の設置が必要である。 ・相談日を増やす。もしくは定期的に設ける。	・いつでも利用できる自習室をつくる。 ・部内で進路に関する情報を共有しながら、進路相談員を育成する。

	重 点 目 標	成 果	評 価	課 題	改善策等
商業科	・専門教育の深化を図るとともにスペシャリストを育成するために、個々のニーズや時代の流れに合った商業の教育課程や指導方法を確立する。	・販売実習の活用 ・特別非常勤講師等の活用 ・受験検定の精選	B	・商業科目内で課題研究につながる取り組み（生徒に考えさせ、提案、発表、コンテストへの応募への推奨） ・講師による講演会の機会の確保 ・全商検定の合格者は昨年度より増加しているが、日商簿記2・3級および経済産業省情報処理技術者試験の合格者数が減少傾向にある。 ・高崎商科大学との連携授業が活用されない状況にある（受講希望者がいない・受講レベルまで達していない・土曜日勤務の問題）。	・来年度、総合的な探究の時間を復活させるため、課題研究と関連付けさせ、これまでよりも探究活動を充実させる。 ・企業との連携とさらに深める（PBL活動の導入） ・各教員が授業に関する知識技術をさらに身に付けるため、自己研鑽に励む。
	・デジタル社会に対応したスマートスクール構想の実践	・各教員に指導者用端末（iPad）が配布されたことにより、授業において効果的な活用がされ、個に応じた指導がこれまでよりも可能となった。 ・動画配信システムにより様々な行事や講演会を体育館に集めることなく実施が可能となった。また、課題研究の講座単位で活用するなど、活用法が広がっている。	B	・プロジェクタ等のデジタル機器が導入されてから年数が経ち、故障等の問題が多くなっている。	・来年度、プロジェクタ等の更新が予定されており、機器の性能が向上されることが見込まれることから、新たな活用法を模索する。 ・各種アプリの使い方を研究し、生徒にフィードバックできるようにする。
情報科学科	高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）の実施に向けて	・本校はAIをDXハイスクールの柱とし、研究を進めていく。また高性能PCの整備やマイクロソフトCopilotアカウントを活用し校務や授業の効果的で効率的な実施を目指す。	B	・学校全体で取り組むべきものであるということが、教員へ周知ができていない。	・令和7年度は2年目の継続取り組みとなるため、研修等を実施する予定である。
	基本情報技術者試験などの情報に関する国家資格の取得を推進	・ITパスポートをきっかけとして情報の国家資格について興味を持つ生徒が増えている。	B	・ITパスポートより上の国家資格に挑戦する生徒が少なくなってきた。	・授業や部活動はもちろん、意欲的に取り組む考えを持つ生徒に対しての働きかけを強化する。
	先端IT人材として活躍するための情報活用能力の向上	・スポーツビジネスコンテスト等の各種コンテストへの応募を積極的に行った。	C	・意欲的に取り組む生徒はもちろんだが、教員への負担もあるためどう役割分担するかが課題である。	・特に商業科教員が中心となり各種コンテスト等の生徒への参加呼びかけを早期に行う必要がある。
	高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）の実施に向けて	・本校はAIをDXハイスクールの柱とし、研究を進めていく。また高性能PCの整備やマイクロソフトCopilotアカウントを活用し校務や授業の効果的で効率的な実施を目指す。	B	・学校全体で取り組むべきものであるということが、教員へ周知ができていない。	・令和7年度は2年目の継続取り組みとなるため、研修等を実施する予定である。

	重 点 目 標	成 果	評 価	課 題	改善策等
1 学 年	基本的生活習慣の確立と姫路商業の生徒として自覚を向上させる。	進路を考え、姫路商業の一員としての自覚を持ち、授業や行事など学校生活への充実をはかることができた。	B	進路変更をした生徒は姫商生として学校生活を確立することができなかった。在籍する生徒には今後の学校生活を有意義に過ごすことができるよう指導を進めていきたい。	進路選択においてミスマッチを起こさないよう、姫路商業の教育方針や学校生活の内容など発信していく必要がある。また、生徒たちを指導する我々の資質も常に向上していこうと研修を積み重ねることが重要である。
	校則やルールを厳守し、自らの考えて積極的に行動できる人材の育成に努める。また、防災をテーマに命の大切さや他者を思いやる心の育成をはかる。	校則について考え、自分たちで守っていくことの意義を高めることができた。防災ジュニアリーダーが石川県の災害ボランティア活動に参加することができ、活動報告も行った。	B	特別問題行動に発展する前に生徒の様子や些細な変化に気付き、声掛けすることで未然に防ぐことができる事案が多い。引き続き学年団や学校全体で取り組んでいきたい。	特別問題行動に発展しても慌てずに対処し、生徒の健全な育成のために必要なことを共有して指導に当たることが大切である。引き続き生徒指導部と学年が連携して取り組んでいきたい。
	将来の進路実現に向けてキャリア教育の充実と学業及び資格取得の目標設定など個に応じた指導を充実させる。	検定の予定を把握し、計画性をもって学習に取り組むことができた。進路に関してはキャリアセンターと連携をはかり、面談を通して確認を続けている。	B	部活動と検定取得に向けた学習時間のバランスを整えたり、譲る場面の必要性を感じた。進路に関して主体的かつ具体的に決定できる資質を育成するため、引き続きキャリアセンターと連携が必要である。	年間行事予定に組まれた進路に関する行事の狙いを共有し、生徒たちの希望とする進路に近づいていけるよう指導していきたい。
2 学 年	基本的生活習慣を確立させ、人としての在り方生き方を考えさせ、自主性・主体性を育成する。	挨拶をはじめとする基本的生活習慣が確立し、集団生活を通して自分の役割を果たす様子がうかがえた。	B	様々な環境や集団を通じて、チームワークとは何かを考えさせる。また、リーダーシップを備えた生徒を育てる。	様々な体験活動を通じて、自分の長所や短所を気づかせ、自ら改善しようとする態度を育成する。
	生徒一人一人の個性の伸長に努め、進路を主体的に選択し決定できる能力を育成する。	様々な学校生活の中で、お互いの個性を認め合う生徒が増えた。また、進路に向けて資格取得や学習面でも切磋琢磨する様子がうかがえた。	B	何事にも見通しをもって計画を立て、評価・改善を加える課題対応能力を向上させる。	学ぶ・働くことへの意義や役割を理解させ、将来を設計する力を育成する。
3 学 年	自ら学び、自ら考える力を育成すると共に、基礎・基本の定着と実践力を身につけ、個を生かす学習指導の充実を努める。	自らの進路実現に向けて、目標を持ち、計画的に資格取得や受験手続を進めるなど、主体的に取り組む姿が見られた。	B	先を見据えた準備に時間がかかり、提出等がギリギリになってしまう生徒が数名いたことで、決裁が回るまでに時間を要した。	進路の準備に余裕が持てるように、生徒や保護者に向けたガイダンスを綿密に計画し、実行する必要がある。
	規律を重視する姿勢を身につけさせるため、信頼関係を基本とした指導を目指す。	学年行事等を通して、一生懸命に取り組み、集団としての規律を意識した行動をとることができた。	B	・集団になじめない生徒、なじもうとしない生徒が増えている。	・学校行事を増やし、相互理解力とコミュニケーション力を高めていく必要がある。
	公平性を守り、主体的な進路選択が出来るよう指導・助言すると共に、家庭との連携を密にする。	キャリアセンターを中心に、小論文対策や面接練習等を実施し生徒の進路意識を高めた。また、適切な時期に進路ガイダンスを実施し、保護者等にも進路の知識を共有することができた。	B	ガイダンス等で指導しているが、面接練習等あまり実施していない生徒も見受けられた。また、調査書発行等必要書類において目を通す箇所が多く、生徒に対して行う指導時間にも追われる感覚であった。受動的な態度で取り組む生徒への高い意識付けを必要とした。	必要書類の簡略化やデータベースの一本化をはかりながら、生徒に対面できる時間を確保できるようにしていきたい。受験シーズンでは学年の先生方も多くの時間を残業にあてなければならなくなっている。